

(参考資料)

農林水産大臣賞・農村振興局長賞等 表彰団体の概要

農林水産大臣賞

○有限会社安曇野ファミリー農産

長野県安曇野市

国営かんがい排水事業「中信平二期地区」

りんご産地の維持発展を図るために、高齢化により管理できなくなった園地を借地し、経営規模の拡大を進めるとともに、作業効率の高い「新わい化栽培」の早期成園化のために畑地かんがい施設を有効利用している。

地域活性化を図るため、独自に就農希望者を全国から受け入れ研修・支援を行い、現在までに7名が地域のりんご農家として独立を果たしている。

本法人の取り組みは、樹園地の耕作放棄化を防ぐとともに、りんご産地安曇野の環境を守る大きな役割を果たしている。



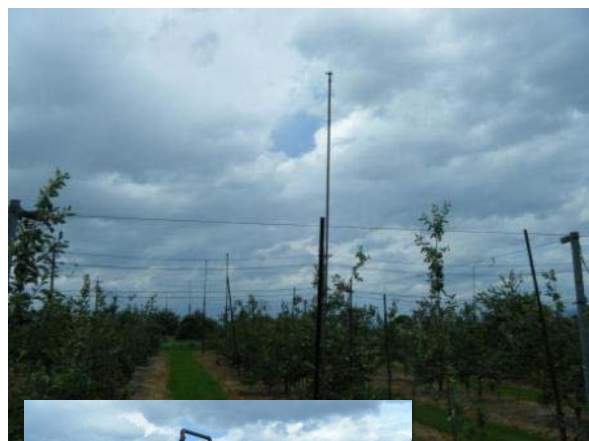
○役員・社員・研修生



○新植したりんご園（新わい化栽培）



○ゴルフ場カートをリサイクルした運搬車



○ほ場内かん水施設

農村振興局長賞

○森田大豆生産組合

青森県つがる市

国営かんがい排水事業「岩木川左岸地区」

排水施設の整備により、湿害が大幅に回避されたことから、森田地域全域の大豆生産に取り組んでいる。

機械・施設の共同利用による効率的な作業運営を行うほか、排水条件の改善等により、収量・品質の向上を図っている。また、20～30代の若手農業者をオペレーターとして雇用しており、就業の場を確保するとともに後継者の育成にも繋がっている。



○コンバインによる大豆収穫作業

○有限会社類農園

奈良県宇陀市

国営総合農地開発事業「大和高原南部地区」

本集団は、担い手の減少・耕作放棄の増加等が続く農業情勢の中で、「農と地域の活性化」をテーマに掲げて、平成11年に国営事業で造成された農地を借り入れ農業に参入している。

開園当初から農産物の生産だけでなく、小学生とその家族を対象とした学習教室や就農希望者研修、地域農産物のPR活動等地区の中で先導的な活動を実施している。



○エコファーマーの取組みを消費者に発信

○オホーツク網走第20営農集団利用組合

北海道網走市

国営畑地帯総合パイロット事業「斜網西部地区」

国営事業の実施により、干害の解消・経営規模の拡大が図られ、労働時間も短縮したことから、だいこんを新規作物として導入し経営安定を図ってきた。だいこん栽培は地域に拡大し、網走市は夏だいの指定産地になった。

徹底した経費の節減と、将来を見越した新規作物の導入により、所得も安定し後継者も定着していることから、地域の先導的集団として期待されている。



○だいこんの収穫風景

全国土地改良事業団体連合会長賞

○有限会社佐渡山農産

新潟県燕市

国営かんがい排水事業「西蒲原排水地区」

湛水被害の軽減、ほ場の汎用化が図られことから、大豆の規模拡大を進めるため平成7年に法人を設立した。

また、利用権設定や大型機械の導入により経営規模の拡大を進め、集落内の農地の約3割を集積している。法人化によって新規就農者も2名確保され、周辺農家からも地域農業を守る組織として評価されており、今後も先進的なモデル集団として発展が望まれる。



○大豆の防除作業

○JAあいち中央碧南露地野菜協議会

愛知県碧南市

国営かんがい排水事業「新矢作川用水地区」

本団体は、地区内有数の野菜生産組織で、主要作物の冬にんじん・たまねぎは産地指定を受けており、食料供給基地として重要な役割を担っている。

用水の安定供給やほ場条件の改善により、県下でもトップクラスの収量・品質を確保すると共に、環境保全型農業の実施やGAP手法の導入にも積極的に取り組み安定した農業経営を行っている。



○たまねぎ収穫作業

○鳥取中央農業協同組合東伯梨生産部

鳥取県東伯郡琴浦町

国営かんがい排水事業「東伯地区」

畑地かんがい用水が確保されたことにより、梨の収量・品質の向上が図られた。また、黒斑病耐病性品種のゴールド二十世紀の品種転換において、かんがい用水を有効利用し早期成園化を図っている。

新規就農者確保のためのモデル事業を、JAが主体となって実施し、入植希望者への指導・助言を組合員で対応し担い手の育成を図っている。



○梨園へのかん水

○宇藤木・東高崎転作組合

岡山県玉野市

国営かんがい排水事業「児島湾周辺地区」

用水の安定供給及び水田の汎用化が図られたことから、集落での話し合いを重ね、水稻・大麦・大豆のブロックローテーションによる土地利用調整と、大麦・大豆の転作を担う組織として平成10年に本集団を設立した。

大型機械の導入による労働時間の削減や大豆の新品種の導入等を行い経営安定を図っており、干拓水田地域の経営モデルにもなっている。



○農機具メーカーとの実証調査

○宮崎中央農業協同組合高岡支店施設胡瓜部会

宮崎県高岡市

国営かんがい排水事業「大淀川左岸地区」

これまで、組織体制の強化と栽培技術の向上に努め、県内有数の施設きゅうり産地を維持・発展させている。

事業により良質で適温の水が利用できることになり、かんがい用水を活用した病害虫湛水防除等に努め、品質及び販売金額の向上を実現している。

新規就農者や後継者も定着し、部会員も9割が認定農業者になるなど担い手が確保されている。

○病害虫湛水防除



○きゅうりへのかん水